

日米センター（CGP）は日本とアメリカにて、助成、フェローシップ、ボランティア、人物交流、情報発信を行なっています。



国際交流基金日米センター

検索

>>詳細検索

CGP NY | 国際交流基金 | English | サイトマップ

- [トップページ](#)
- [日米センターとは](#)
- [公開イベント](#)
- [団体で助成金をお探しの方へ](#)
- [個人向け支援・ボランティアの機会をお探しの方へ](#)

[安倍フェローシップ](#)  
[安全保障研究奨学プログラム](#)  
[Japan Outreach Initiative](#)  
[NPO フェローシップ](#)

- [CGPの人物交流事業](#)
- [情報室（刊行物、寄稿など）](#)

- [アクセス](#)
- [お問合せ](#)
- [FAQ](#)
- [更新履歴](#)

[CGP公募助成プログラム](#)

[CULCON 日米文化教育交流会議](#)

最新情報をEメールでお届け  
 NEWSLETTER  
 メール配信サービス

COLUMNS



## 安倍フェローシップ（研究者等対象）

国際交流基金日米センター（The Japan Foundation Center for Global Partnership）、米国社会科学評議会（Social Science Research Council）、および米国学術団体評議会（American Council of Learned Societies）は、安倍フェローシップ・プログラムの申請公募を行ないます。安倍フェローシップ・プログラムは国際交流基金日米センターの出資をもとに運営されています。

### 安倍フェローシップ・プログラムの目的

本プログラムは、現代の地球的な政策課題で、かつ緊要な取り組みが必要とされる問題に関する学際的、国際的な調査研究の増進を目的としています。また、長期的に政策指向的研究に従事する新世代の研究者の成長を支援し、そのような政策課題をテーマとして共有する研究者の日米2国間ならびに全世界的ネットワークに主要なメンバーとして積極的に関わっていく人材の育成を目指しています。さらに、地球的な課題解決と国際理解増進に取り組む日米の学術、および専門家のコミュニティ間に新しい知的協力の場を築くことに重点がおかれています。

安倍フェローの採用については、研究者個人の実績と関心の所在が上述の趣旨に合致することが要件となっています。また安倍フェローには、受給期間中に本プログラムが提供する様々な活動に参加し、本プログラムの趣旨、目的に対する長期的コミットメントを示していくことが期待されています。

### 安倍フェローシップの対象となる研究課題

安倍フェローシップは個人の調査研究プロジェクトに対する奨学金制度です。その目的は、社会科学とその関連学問領域における高度な研究を促進し、以下の3つのテーマをめぐる研究者間の新しい協働関係とネットワークを形成すること、また、これら研究者に対して新しいデータや情報源を提供し、比較研究あるいは国境を越えた視点に立った研究に従事するコミットメントを引き出していくことです。学者、研究者、また学界以外の各分野の専門家からの応募を歓迎します。

対象となるプロジェクトは次の3つのテーマのいずれか、または2つ以上のテーマの組み合わせに該当する社会科学ならびにその関連学問領域の研究とします。これら3つのテーマのもとで取り上げられる例として、人間の安全保障、多国間主義対2国間主義、日米関係、国境を越える経済関係、市民やコミュニティへのエンパワーメント、持続的発展、その他様々な課題が考えられます。

### テーマ

1. **外交と安全保障：伝統的および非伝統的アプローチ**：この分野の研究課題としては、国際テロリズムや核拡散防止、気候変動、また、民族・宗教間対立、感染症、食品の安全性、平和構築における文化の役割といった「人間の安全保障」に関わる問題などの緊急性の高い全世界的関心事があげられるでしょう。
2. **世界経済および地域経済の諸問題**：例えば、地域間・2カ国間貿易協定、グローバリゼーションとその負の影響、持続可能な都市化、環境悪化などが課題としてあげられます。
3. **市民社会の役割**：この分野では人口統計的変動に伴う移民の受け入れと市民社会の役割に関する諸問題、公益代表としてのNPO、NGOの役割、社会起業に関する問題、企業の社会的責任に関する課題などが考えられます。

各テーマに共通して、今日の政策論議に重要な知的貢献をなし得ること、あるいは理論的、経験的に新天地を開拓するものであることが明確に示された研究プロジェクトは優先されます。申請者は申請する調査研究プロジェクトが当該テーマをめぐる既存の研究業績をどのように超えていこうとし

ているかが計画の中に明確に示されている必要があります。またどのように本人の過去の業績や技能の上に立って新しい知的領域に移行しようとしているものなのかを明示することが期待されています。例えば、それまでの研究業績を踏まえ、新たに比較研究の手法を試みる、新しい理論的枠組みの開拓を試みる、別の学問分野の理論や手法を加味して学際的な研究を行なってみること、または理論的な研究業績に新たに地域研究的な観点を加えてみる、など様々なパターンが考えられるでしょう。

なお本プログラムは調査研究を支援するものであって、申請されたプロジェクトの目的が旅行のみであるもの、あるいは語学研修を主とするものなどについては対象になりません。但し、語学の個人授業や再訓練コースの受講については、研究プロジェクトにとって必要であると研究計画の中で十分に説明されていれば、研究費用の一部として認められる場合があります。

### 採用基準

安倍フェロシップ・プログラムは、単に1カ国に関する理解を深めるよりも、比較あるいはグローバルな観点を有する研究を奨励します。また、異文化間の深い理解に資する研究を促進していきます。

審査委員会は、申請された研究プロジェクトの中に次の3つの特性、(1)政策関連性、政策指向性があることが強い今日的課題に明確に焦点を当てたプロジェクトで、(2)現代的な課題を扱っていること、(3)米国や日本に関する研究をより広範な学問分野や理論上の議論に引き上げるような比較研究的視点、あるいは国境を越える視点があること、が明示されていることを採用上の重要な基準とします。

#### 政策関連性 (Policy Relevance)

安倍フェロシップは、政策関連研究を、(1)公共政策やその結果の研究、また、(2)効果のより高い政策を案出する研究と定義しています。また、社会の様々なセクターにとって議論の対象となっている今日的な問題の研究にも、政策関連性を見出すことができるでしょう。申請される研究プロジェクトには、テーマ、内容、計画の各々において、政策関連性が明示されていなければなりません。

#### 現代的な課題 (Contemporary Focus)

本プログラムは、今日的な課題に取組む調査研究プロジェクトを求めます。すなわち対象となる課題は現在行なわれている調査研究や論議に関連するものとします。したがって、歴史的研究を行なう場合、その研究がいかにして現在の政策課題の理解と解決に必要な情報を提供し得るのかが具体的に示されていることがポイントとなります。

#### 比較研究あるいは国境を越える視点 (Comparative or Transnational Perspectives)

1カ国研究的なものではなく、研究の対象とする問題や諸事象を時間的及び空間的に比較することを主眼とした研究であることが必要です。申請者は研究計画の構築とその目標を通して、その研究プロジェクトがどう比較的吗、あるいは国境を越える視点を持っているのかを明示することが必要です。

こうした研究の典型として、複数国のデータ収集、あるいは異なる時期におけるデータ収集を含むものがあげられます。安倍フェロシップでは、1カ国のみでのデータ収集は、比較的または国境を越える視点での研究を目的とすることが明らかな場合に限り認められます。この場合、そのデータが1カ国にとどまらない比較的地域からの意味を持つことを研究計画で明示的に説明してください。なお、研究対象が各国に共通してみられる現象であると述べるだけでは、プロジェクトの比較的視点を十分に説明していることにはなりません。

### 申請資格

- 日本国籍または米国民権の保有者。もしくはその他の国籍保有者で、日本または米国に長期にわたる研究拠点を有する者。
- 博士号 (Ph.D.) もしくは当該分野での最高学位、または専門分野での同等の経験を有する者。
- 語学の習得度については資格上の要件ではありませんが、申請する調査研究の内容からして語学力が不可欠と判断されるものについては、プロジェクトを完遂させるために必要十分な語学力の証明書を提出することが求められます。
- 学界以外の専門家からの申請も歓迎します。ただし、安倍フェロシップによる研究の成果が、その課題に関する既存の知的蓄積に寄与することが期待されています。なお、ジャーナリズムに携わっている方は「安倍ジャーナリスト・フェロシップ募集要項」をご覧ください。
- 重要な政策課題に関する研究または具体的政策提言を意図する研究の場合、その目的や内容が党派的とみられるものは安倍フェロシップの対象となりません。

注：同じ年度内(4月1日～翌年3月31日)に国際交流基金が出資するフェロシップを2つ以上受給することはできません。また、国際交流基金フェロシップ

(<http://www.jpff.go.jp/j/intel/study/fellowship/index.html>)を現在受給中、ないしは今年度受給開始

予定の方は、今年9月締め切りの安倍フェローシップへの申請はできません。さらに、米国からの申請者はこの2つのプログラム両方に、同一年度内に申請することはできません。どちらのフェローシップに申請するべきかに関するご質問は、米国社会科学研究評議会(ssrcABE@gol.com)までお寄せ下さい。国際交流基金ニューヨーク事務所と協議の上回答させていただきます。その際、簡単な履歴とプロジェクトの要約をお送りいただいても結構です。

### 奨学金支給条件

安倍フェローシップ奨学金の支給条件は、研究者の各々異なるキャリア段階のニーズに応えられるよう柔軟性をもった内容になっています。安倍フェローは、採用の翌年4月1日から12月31日までにフェローシップを開始する必要があります。フェローシップの受給期間は連続しなくても構いませんが、フェローシップ開始後24カ月以内に研究を終了しなければなりません。

- 安倍フェローシップは、個人による調査研究プロジェクトを対象とします。但し、共同研究の枠組みの中にプロジェクトが位置づけられていても問題ありません。
- 全フェローシップ期間ののべ3分の1以上の期間を、相手国(米国または日本)で、研究滞在しなければなりません。また、安倍フェローシップ審査委員会は、付加的なネットワークづくりのための活動を具体的に推薦する場合があります。
- 安倍フェローは、日本または米国の研究滞在先で適切な研究機関に所属することが求められています。また、個々の研究ニーズに合わせ、第3国に滞在し調査研究を行なうことも可能です。
- 安倍フェローは、採用後、特定のプログラム・イベントに参加することが義務づけられます。

### 申請手続き

安倍フェローシップの申請はオンラインでのみ受け付けています。詳しくは<http://www.ssrc.org/fellowships/abe-fellowship/>をご覧ください。申請締め切りは毎年9月1日です。ご質問はSSRC東京事務所にお問い合わせ下さい。

〒160-0004 東京都新宿区四谷4-4-1  
独立行政法人国際交流基金日米センター内  
米国社会科学研究評議会(SSRC)東京事務所  
安倍フェローシップ・プログラム  
電話番号:03-5369-6085 ファックス:03-5369-6042  
電子メール・アドレス: [✉ E-mail](mailto:abe@ssrc.org)

TOKYO OFFICE  
国際交流基金(ジャパンファウンデーション) 日米センター  
160-0004 東京都新宿区四谷4-4-1  
Tel (03)5369-6072 Fax (03)5369-6042

NEWYORK OFFICE  
The Japan Foundation Center for Global Partnership,  
N.Y.  
152 West 57th Street, 17F New York, NY 10019, U.S.A  
Tel (212)489-1255 Fax (212)489-1344